学校だより

翔　　空

№３０　平成２３年　１２月１日（木）
郡山市立喜久田中学校長　大堀　昌弘

「翔空（しょうくう）」の由来　〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚（ふうこうめいび）なこの学舎（まなびや）から、**希望に燃え限りない空へ、力強く翔んでほしいという願い**を込めて、翔空の碑ができた。

［和楽の授業をTTで］

先日３０日は、１年生の音楽の時間に、外部講師として吉田淳子さんという方にお出で頂き指導をお願いしました。（吉田さんは、日頃は三春の交流館「まほら」に勤務しています）１組から３組まで２時間ずつ音楽担当の吉成先生と一緒に、丁寧に琴の演奏の指導をしていただきました。専門性のある講師を招聘しての指導は今後も続けたいと感じています。そのためにも次年度も教育委員会に予算の要望を強く求めていきたいと考えています。ちなみに今回の予算は「特色あるる学校づくり」の一環として配当となっていたもので、春先の芝桜による学校周辺の環境づくりも同様の予算からの支出でした。

【世界の名言（英語版）⑨】
「世界の名言」の第９弾です。どうぞお楽しみください。

Treat your friends like family and your family like friends.

（友だちを家族のように、家族を友だちのように扱いなさい。）　～作者不詳～

家族は時として、互いに干渉し合いすぎることがあります。ですからたまに友だちのように少し距離を置いた方がよいのです。一方、友だちは結局は他人であり、心の底からは親身になれないことが多くあります。しかし、友だちには家族に接するように相手のことを思いやりなさい。
このようなことをこの名言は強く私たちに伝えてくれているのでしょう。

（トリート　ユアー　フレンズ　ライク　ファミリー　アンド　ユアー　ファミリー　ライク　フレンズ）

「わが校の生徒のすばらしさは」

～他人事（ひとごと）でなく親身になって～

先週から今週にかけて、本校生徒の活躍を見たり、聞いたりする機会に恵まれました。そのごく一部を紹介したいと思います。

［平成２３年度郡山市中学校生徒造形展］

２年　渡邉由佳里さん　教育長賞（県奨励賞）
３年　鈴木　晴翔さん　議長賞　（県奨励賞）

この他、１年３名、２年１名、３年２名が特選をいただいています。この週末（１２月３日～４日）ぜひ、ニコニコこども館へ足をお運びください。他校の生徒作品も含め素晴らしい作品が多く展示されています。私も３日午後に行こうと思っています。

［第２回英語検定試験二次試験（面接）］

本校経由で申し込み、受験した生徒全員が英検の面接試験をパスしました。（他に塾経由で申し込んで合格した生徒もいると聞きました）中でも、中学生には難関と言われる準２級に挑戦し合格した３年の**齋藤裕城くん**は特筆すべき快挙と言えます。

［第２回郡山市美しい日本語表現コンテスト］

２９日に行われたこのコンテストには、何とか時間を工面して私も出席し、直接生の発表を聞ことができました。本校からは全員１年生の参加でしたが、他校の３年生や２年生に負けず劣らず精一杯の発表を行っていました。男子４名（**熊田朋樹くん、小泉郁真くん、増子大希くん、渡邉直弥くん**）は１年生と思えないほど堂々とした生きのいい発表をしていましたし（課題は「竹取物語」）、女子２名（**佐藤瑞季さん、千坂奈々さん**）は、夏目漱石の「吾輩は猫である」をいともかわいらしく上手に表現していました。共に次年度のさらなる飛躍を約束するような素晴らしい発表でした。（６名は、発表前日に職員室にいた先生方に向かってリハーサルを行い大きな拍手をもらっていました）

本来あってはならないことなのですが、自分の学校の生徒のことを一番よくわからないのが校長だと言われることがあります。２１０名の生徒の日々の生活を事細かく見る機会がないため、どこにどんな性格の子がいて、どんな活躍をしているのか、担任や学年主任を通してしかわからない歯がゆさがあります。しかし、学校は「まずは生徒が生き生きと活躍できる場所」そして「心の拠り所となる所」でなくてはなりません。そのためにも、私も忙しいなどと言ってはおられず、授業なり部活動なりに多く足を運んで生徒理解に努めていきたいと考えています。悲しいかな、８月に着任してから２１０名の生徒の中で顔と名前がしっかりと一致する生徒の数はまだ５分の１程度なのです。（ひたすら陳謝します！）